

■祇園南海 文人画家。詩才溢れる儒官で、文人画(南画)を開拓し、祖となった。

ぎおんなんかい

1676= 江戸で、紀州藩の藩医祇園順庵の長子に生まれる。

徳川綱吉將軍1680= 4歳：

堀田正俊暗殺1684= 8歳：

出世景清初演1685= 9歳：

1689=13歳：木下順庵に入門してまもなく、七言律詩「辺馬有婦思」を賦して新井白石を驚かす。

湯島聖堂1690=14歳：藩主に詩を献じて褒美を拝領するなど、

年少のころから詩文に豊かな才能を示し木下門下の逸材といわれ、

世間胸算用1692=16歳：春分と秋分の日、五言律詩百編をつくって、後々まで語り草になる。後に自ら影写説の始まりという七言絶句「擣衣」を詠じる。

芭蕉+師宣没1694=18歳：

生類憐令頂点1695=19歳：

一方、青年時代はかなり奔放に遊び、

荻原勘定奉行1696=20歳：父が死去して、

1697=21歳：家督を相続し、才能を認められて藩の儒官となるも、

吉保大老格1698=22歳：師木下順庵が死去しても、追悼詩もないようで、

1699=23歳：和歌山に移住するもなじめず、

1700=24歳：不行跡によって知行を召し上げられ、城下を追われて片田舎に謫居を命ぜられ、

以後、約10年間困窮生活を送る。

赤穂浪士切腹1703=27歳：

1706=30歳：この年の作詩への室鳩巢の跋残る。

富士宝永噴火1707=31歳：「秋景山水図」を描くなど、画業にもその才能を発揮、

シヅメが拘束1708=32歳：木門の友人岡島石梁の見舞いを受ける。

徳川綱吉没1709=33歳：

1710=34歳：赦されて、和歌山城下に戻り、白石から祝いの書簡を受け、

冥途の飛脚1711=35歳：\*儒官に復した。江戸に出て、旧知と再会後、来日した朝鮮使節の接待役として持ち前の詩才を発揮し、

乾山陶器店1712=36歳：その功で、200石に復する。

和漢三才図会1713=37歳：次男が誕生。\*藩校(講積所)が創設され、その教官となる。

徳川吉宗將軍1716=40歳：京に赴いたらしく、

隅田川の桜1717=41歳：高野山の龍神温泉に赴く。

御蔭参流行1718=42歳：この年、白石が編集した「停雲集」に詩25首収録。

小石川葉園1721=45歳：「明詩俚評」、

1725=49歳：白石が死去し、追悼詩。

この頃から、画業にも専念するようになり、「八種画譜」や「芥子園画伝」などの版本を通じて元・明文人画の知識や技法を習得、

1730=54歳：

享保大飢饉1732=56歳：「冬景山水図」「江辺曳杖図」、

悪鋳再開1736=60歳：「南海先生集」(初稿)成るか。\*「蘭竹図」を描くなどして、日本の文人画を開拓、

シヅメ船出没始1739=63歳：

1743=67歳：この頃、随筆「湘雲?語」著す。

徳川吉宗隠居1745=69歳：

忠臣蔵1748=72歳：

1750=74歳：次男が不行跡で城下追放。\*紀州を訪れた池大雅を指導するなど、後世に大きな影響を与えて、

徳川吉宗没1751=75歳：没した。

没後、「明詩俚評」「南海先生詩稿」「詩学逢原」「南海先生集」「南海詩訣」刊行。

岩波「江戸詩人選集3」、「人づくり風土記(和歌山)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、